

【チャプター1・2回目のお・と・ま・り】

初めての強引のお泊りから、2回目のお泊り☆

今度はカレーライスを夕食に作って、デザートには手作りのみもりラブクッキーパート2とコーヒーで甘い一時を過ごす。

【チャプター2・お兄さんのお耳お掃除☆】

お風呂上りのみもりにドキドキなお兄さんをからかう様にくっついて耳元で息を吹きかけてから、今度は耳かきをしてあげちゃいます！

お風呂上がりの良い香りと、膝の柔らかさにお兄さんのリラックス度はMax！

左右の耳かきが終わったらお兄さんと添い寝。

しかしただの添い寝で終わるわけもなく、今度もみもりのラブアタックでお兄さんは眠れなくなってしまいます（笑）

CHAPTER 1

SE：玄関ドア開いて、閉じる

↓方向、中央・楽しみにしてたように。

「お兄さん、こんにちは！」

「機嫌がいいですか？」

「えへへ、2回目のお泊りで嬉しいんですよ」

「お兄さんは？楽しみにしてくれてましたか？」

「嬉しいです！わたしもすっごく楽しみにしてました！」

「これですか？今日はカレーを作ろうと思って材料を買ってきたんですよー」

「あと、みもりラブクッキーも焼いて持ってきましたので、お兄さんのコーヒーでまた食べましょうね！」

「それじゃ、お邪魔しまーす」

↓方向右側、距離感は隣に立っている感じ。感心しながら

「お兄さんのおうちって、清潔感ありますよね」

「小さいころから家事の手伝いをしてたんですもんね。男性としてキッチンとしてます、お兄さんは」

「でも、そのせいで、わたしがお兄さんの家でお掃除をするというイベントが発生しないのはちょっと残念です」

↓方向：右から正面へ回りながら。

「だって、彼女さんだったら、もうだらしがないんだから！って言いながら家事をしてあげるっていうのも優越感感じていいんですもん」

↓方向：ここからは正面

「え？だったら今度、掃除に来てくれって？」

「いいんですか？掃除しに来て？」

「はい！むしろ来てほしいなんて言われたら、断る理由なんてありません！」

「あ、そうですね。それじゃ、早速カレーの準備に取り掛かります！」

方向：右側、距離は近め

↓嬉しそうに

「お兄さんも手伝ってくれるんですか？それじゃ、よろしくお願いいたします！」

↓弾んだ雰囲気

「二人で料理するなんて、まるで新婚さんみたいですね」

「それじゃ、わたしはカレーの野菜を切ります。お兄さんはサラダをお願いできますか？」

「はい！二人で美味しい夕食にしましょうね！」

↓料理中の会話。SE：野菜を切る音（こちらで用意します）

「そういえば、お兄さんって料理もされますよね？」

「ええ、カレーって定番でしたがカレーも作るんですか？」

「たまに、ですか？ あー、レトルトカレーが便利ですもんね」

「え？誰かの手作りカレーは久しぶりだからお兄さんも楽しみだったんですか？」

「嬉しいですよ！わたしの愛情をたっぷり入れて作りますね！」

「どうしたんですか？じっと、見て？」

「改めて可愛いな……って何言っているんですか！？」

↓すごく照れた感じで、ここから→

「いや、嬉しいですけどお……。ちょっと恥ずかしいじゃないですか」

「や！そんな可愛い可愛い連発しないで下さい」

「うううう」

「もう、お兄さんったらあ」

↑ここまで

↓念を押すように

「はい、ここからは真面目に作りますから。もう照れるようなことは言わないで下さいね！」

※食事が終わって

↓満足感たっぷりに

「はー、美味しかったです」

「あ、はい、お粗末様でした」

「食後の、みもりラブクッキーはどうします？」

「え？クッキーより、わたしを食べたいって……。何言ってるんですか、もうー」

↓少し意地悪そうに

「もう照れませんよ〜だ。そもそも慣れちゃいましたよ」

「残念ですか？ まあ、そんな残念がってしまったお兄さんにー」

「じゃん！これなんだと思います？」

↓自慢気に

「そう、耳かきです！男の人って女の人に膝枕されながら耳かきされるの好きなんですよね？」

「はい、ちょっと友達に聞きまして。それで、お兄さんにもやってあげたいなーって」

「あ、はい！それじゃ寝る前にやってあげますね〜」

「え？もうやって欲しいんですか？」

「うーん、耳かきってお風呂入った後の状態の方がやりやすいって聞いたんで、あとにしませんか？」

↓だったらもうお風呂に入ろうと言われて、驚く

「え？もうお風呂に入るんですか！？」

「ちょっと、気が早いというかー コーヒータイムはどうするんですか？」

↓小さな子供のわがママを聞くように

「コーヒータイムは耳かきの後？ はあー、わかりました。そんなに耳かきされたいんじゃない

仕方ないですねー」

「じゃあ、お風呂入っちゃいましょう」

CHAPTER 2

リビングに入ってくる。お兄さんソファ。

方向：正面、少し距離がある

「はあ〜、気持ち良かったです〜」

方向：正面、目の前→右側隣に座る

「え？パジャマ可愛いですか？ ふふふ、実はこれからいつでも泊りに来れるように新しいパジャマ買ったんです」

方向：右側。隣に座っている距離感

「はい、いつでも泊りに来れるようにこれからは、このパジャマをお兄さんのお家に置かせてもらいますね？」

「下着とかの替えは置いておかないのかって？」

↓呆れた感じで

「お兄さん……。何考えているんですか？はあ〜」

「わたしの着替えを一式置いておいたとして、お兄さんは何をするつもりなんですか？」

↓お兄さんの返答に更に呆れる感じで

「お兄さんって、変態さんだったんですね……。がっかりです」

↓慌てて、取り繕うとするお兄さんに笑いながら

「あははは、お兄さん、慌てすぎですよー まあ、男の人だからそういう事を言うのも理解はしてます」

↓ここはいたずらっ子に注意するように

「でも、お兄さん？そういうことは心の中に思っても、声に出さないのが紳士だと思いますか？」

↓もう一、のところからはからかう様に

「ん、よろしいです。もう一、お兄さんは仕方のない子供みたいです〜」

「はい、それじゃ耳かきしましょうか」

方向：右側のまま耳元で無音ささやき

「とっても気持ちよくしてあげますね」

方向：右側のまま。無音は終了

「それじゃ、わたしの膝枕に頭を乗せてくださいね」

「ふふふ、ちょっとお兄さんの頭チクチクします」

「痛いというよりはくすぐったいですね〜」

「さて、お兄さんのお耳の中はとと……」

「あー、これはやり甲斐ありそうですね。あまり耳掃除はしないんですか？」

「忙しいからそんな暇、なかったですか。なるほど」

「耳かき、入れますね？痛かったら言ってください」

SE：ここから耳かき音。

耳かきの間ように約1分半程、息遣いを。

方向：右のまま。

「はい、右耳終わりです。たくさん取れましたよ～、ほら、これなんて特大です！」

↓わざと落ち込んだように

「え？見せなくてもいいですか？せっかくの大物だったのに……」

↓ここは落ち込んだのがウソと分かるように

「冗談ですよ～」

「はい、それじゃ今度は左耳です」

方向：左耳

「左耳もたくさんありますよ～、これはヌシが潜んでますね～」

「え、人の耳を池のように言うなですか？ふふふ、ごめんなさい」

「はい、それじゃ耳かき入れまーす」

SE：ここから耳かき音。

息遣いは右耳のを使いまわします。

方向：左耳のまま

「終わりましたよ～、ってすごく気持ちよさそうにしていますね？」

「そんなに気持ちいいんですね～　なんか羨ましいです」

「お兄さん、耳かきの後に息を吹きかけてあげますね～　残りの掃除もかねて」

「はい、そのままでいいですよ。それじゃ、行きますねー」

ここから息吹きかけを1分半程。

「はい、終わりです。じゃあ、右側もやっちゃいましょう」

方向：右側へ

「それじゃ、右耳も始めます」

息吹きかけはここもを使いまわします。

「はい、終わりました～～　本当に気持ちよさそうです」

↓“って仕上げにってなんですか”の部分はおかしように

「え？仕上げにまた好きって言って欲しいんですか？って仕上げにってなんですか」

「はい、わかりました。それじゃ、またささやいてあげますね」

方向：右側のまま、無音ささやき。

ここは好きを連呼してください。アレンジ OK。

右側約1分半、徐々に左側へ移って左へ移り左側も約1分半。

方向：左側。無音ささやき継続。

「はい、終わりです」

↓少し甘えた雰囲気

「お兄さんの事、好きってずっと言っていたらすごく切なくなってきました」

「お兄さんから好きって言って欲しいです」

↓お兄さんに好きって言ってもらえて。

「お兄さん……。ありがとうございます」